

2 番、佐藤安美です。

通告に基づきまして一般質問を行います。

令和3年度をもって閉校となった大川小学校と釜津田中学校。大川地区に唯一残っていた釜津田小学校も令和6年度をもって閉校となり、岩泉小学校に統合となります。対象児童・保護者及び関係者一同（地域住民）は、新たな日常に様々な期待や不安を抱えています。

特に大きな不安材料は、通学路の安全性であります。県道については、道幅が狭くカーブが連続し、車両のすれ違いに支障をきたす箇所が多く点在します。町議会産業常任委員会で町内県道の調査を行った際には、委員から「県道大川松草線は幅員が狭く、急カーブの連続で立木がカーブ沿いに生い茂り、前方も空も見えない」「県道の中でも一番整備が遅れている」などの声が上がりました。

要望活動等の効果が得られたのか、一部、枝の伐採等で空の見える場所もありますが、カーブ沿いの立木の伐採は一向に進まず、安全性が危惧されます。道路改良整備には、用地の確保が必要不可欠です。また、道路沿いの立木伐採では、河川敷分、個人所有地とあります。町としても道路整備を後

押しするため、用地調査や用地交渉、個人所有林の伐採承諾を取り付ける等、県土木センターと協議のうえ積極的に後方支援・サポートすることで道路整備促進につなげるべきだと考えます。

現状の道路状況では、小学校児童のスクールバス通学は、体力的にも精神的にも大変な負担を強いる状況であります。

先の町長の施政方針においても、国道・県道の道路整備について具体的な箇所をあげて、粘り強く要望していくと述べられておりましたが、より具体的な後方支援・サポートをすることで、県土木センターに対し、当該箇所の道路整備について強力に働きかける考えはないか、町長の所見を伺います。

2 番 佐藤 安美 議員の御質問にお答えします。

学校統合に向けた道路整備についてであります。町の最重要課題として位置付け、これまでも、県への統一要望や、各地区の道路整備促進期成同盟会と連携した要望活動など、一日も早い整備の実現に向け、あらゆる機会を通じて要望活動を重ねてまいりました。

去る 7 月 20 日には、「町内県道整備促進住民総決起大会」、10 月 12 日には、「国道 340 号宮古岩泉間整備促進住民総決起大会」を開催したところであり、この大会を通じ、道路の早期整備に対する沿線住民の切実な願いを、県を始め、町内外に力強く発信できたものと確信しており、道路整備の加速化につながるものと期待しているところであります。

議員御案内のとおり大川、釜津田地区の児童、生徒の通学路であります一般県道大川松草線と国道 340 号は、急カーブが連続し、幅員も狭く、車両のすれ違いに支障をきたす区間が多い路線であります。

道路沿いの立木伐採につきましては、大川地区道路整

備促進期成同盟会と岩泉土木センターが合同でパトロールを実施し、要望箇所を伐採するとともに、令和3年度から4年度にかけて、19か所に待避所が整備され、少しずつではありますが、着実に安全対策が施されてきたものと認識しております。

また、所有者に対する用地交渉や立木の伐採承諾などに係る、県へのサポートにつきましては、これまでも、各地域で開催される事業説明会や、各地区道路同盟会総会へ町職員も出席し、地域住民の皆様からの要望などの情報共有や課題の把握に努め、町からも事業推進の参考となる情報提供を行うなど、あらゆる対応を適時適切に講じてきたところであります。

今後におきましても、児童、生徒が安心して通学できる環境づくりのため、支障となる立木の伐採を含め、適切な道路環境の確保と整備が円滑に進められるよう、町と町議会が一体となり、県に対して要望してまいりたいと考えております。

以上で答弁を終わります。